

# 3・8メートル以内で要望

## 内湾防潮堤 フラップゲート採用

気仙沼市

気仙沼市は5日、内湾地区の防潮堤に関する要望書を県に提出した。内湾地区復興まちづくり協議会の提言を踏まえ、コンクリート堤の高さを海抜3・8メートル以内に抑えるため、可動式フラップゲートの採用を求めた。湾口防波堤は「課題が多い」とし、フラップゲートの高さで対応するよう要望した。

市は神明崎―柏崎に設置する湾口防波堤について、船舶の安全航行、水質悪化に懸念があるとし、「そもそも景観重視が求められてきた内湾地区には課題が多い」と見解を説明。フラップゲートをとで、合計5・1メートルの堤防高を確保するよう提案している。6日の定例記者会見

で菅原茂市長は「ポイントには県がフラップゲートを採用するか、そして1メートル以上にする

ことを認めるかだ」と語り、年内の回答を期待した。「(余裕高を撤廃する)特殊計画高として認めていないので、1メートルでも1・3メートル以上でもこだわらないと思う」との認識を示した。

協議会が市と県に提

出した提言書では、①港町の一部区間を無堤化②湾口防波堤(海抜5メートル)を設置③海岸線のコンクリート堤は高さ3・8メートル④余裕高1メートルにフラップゲート採用―とまとめている。県の計画堤防高は5・2メートルで示されていた。

### 年内合意は困難

内湾地区の防潮堤計画を巡り、まちづくり協議会と市が湾口防波堤で異なる結論を出し、いずれも新技術のフラップゲート採用を求めたことで、県が目指していた年内合意は難しくなった。

県が年内合意にこだわった理由の一つは、海岸保全基本計画を策定し、年内に国交大臣に提出するためだった。計画策定には地域説明会、意見公募、行政会議、有識者会議などの手順に3カ月はかかるという。

県は気仙沼市と石巻市を三陸南沿岸として

一つの計画で提出する。堤防を新設する地域は、この計画が策定されない事業が進められないため、県河川課は「年内は不可能になったが、年度内には提出したい」とし、住民の最終合意が得られていなくても年明けから手続きに入る可能性を示唆した。